

埼玉県立病院機構の概要、 令和 5 年度実績及び令和 6 年度上半期実績



埼玉県立病院機構の概要

病院概要

- 令和3年4月1日に4つの専門病院を同時に法人化
 - 熊谷市に循環器・呼吸器病センター
 - 伊奈町にがんセンター、精神医療センター
 - さいたま市中央区に小児医療センター

中期計画に掲げる
3つの柱

高度専門・政策医療の提供

人材の確保と組織づくり

財務内容の改善

循環器・呼吸器病センター



開設年月 昭和29年1月
(小原療養所(結核療養所)開設)
病床数 343床
(一般292 結核30 感染症21)
診療科数 19科
職員数 641人

指定等

- ・第二種感染症指定医療機関
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク
基幹病院
- ・結核指定医療機関

がんセンター



開設年月 昭和50年11月
病床数 503床
診療科数 27科
職員数 852人

指定等

- ・都道府県がん診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

小児医療センター



開設年月 昭和58年4月
病床数 316床
診療科数 30科
職員数 908人

指定等

- ・小児がん拠点病院
- ・小児救命救急センター
- ・総合周産期母子医療センター
- ・災害拠点病院
- ・がんゲノム医療連携病院

精神医療センター



開設年月 平成2年4月
病床数 183床
診療科数 6科
職員数 228人

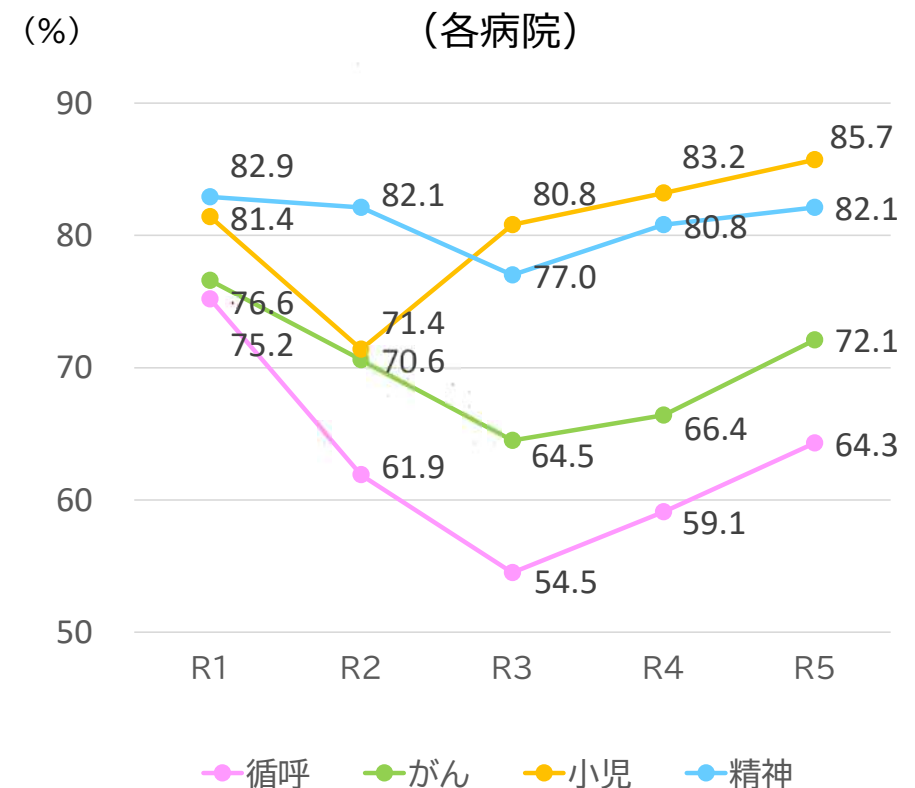
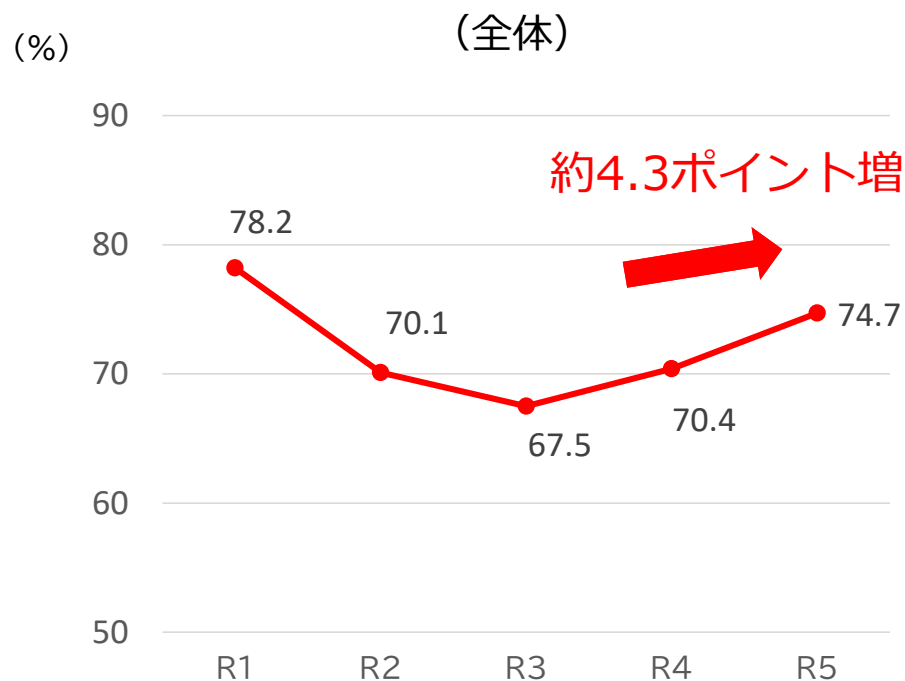
指定等

- ・埼玉県精神科救急医療体制整備事業
常時対応施設
- ・医療観察法指定入院・指定通院医療機関
- ・埼玉県依存症専門医療機関
- ・埼玉県依存症治療拠点機関

令和5年度の事業実績 | 病床利用率

- 病床利用率は、令和4年度比**約4.3ポイント増**と大幅改善したが、令和元年度比では**約3.5ポイント減**とコロナ禍以前の水準まで回復していない。
- コロナ禍での病床利用率下げ幅が大きかった循呼センター及びがんセンターは、積極的な前方連携により、それぞれ令和4年度比**約5.2ポイント増（循呼）**、**約5.7ポイント増（がん）**と、着実に増加を果たした。

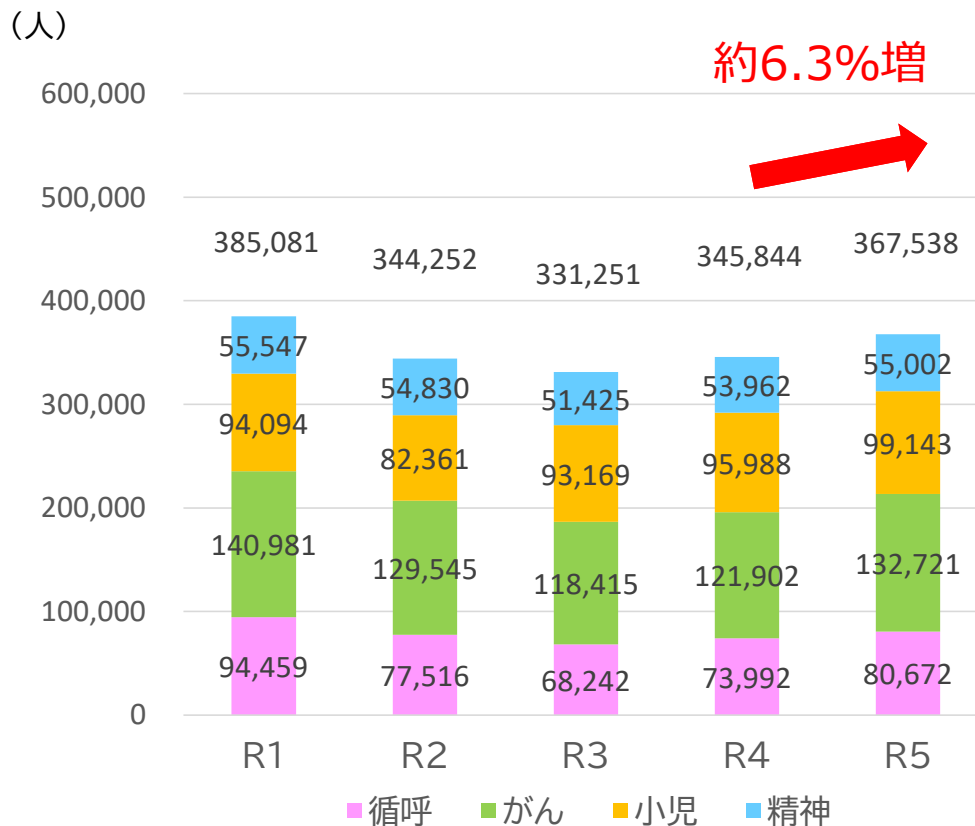
病床利用率の推移



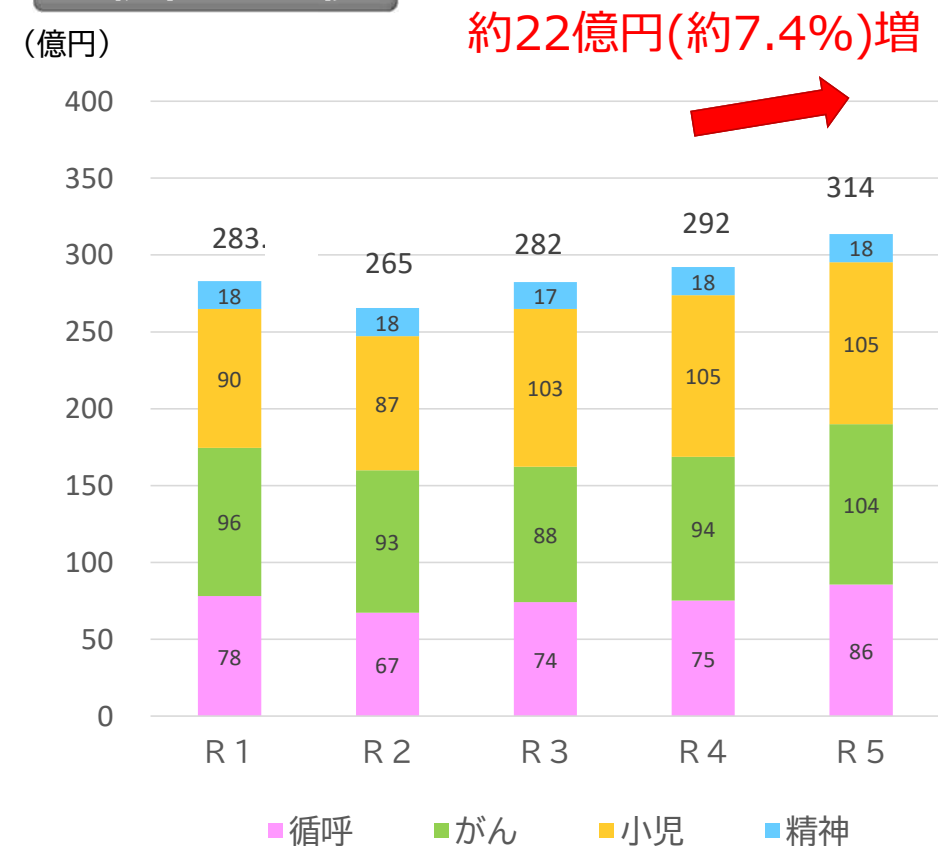
令和5年度の事業実績 | 入院

- 入院患者数は、令和4年度比約6.3%増、入院収益は約22億円(約7.4%)増と回復傾向を維持。
- 令和元年度比では、入院患者数は約4.6%減であるが、入院収益は約10.8%増となった。

入院患者数の推移



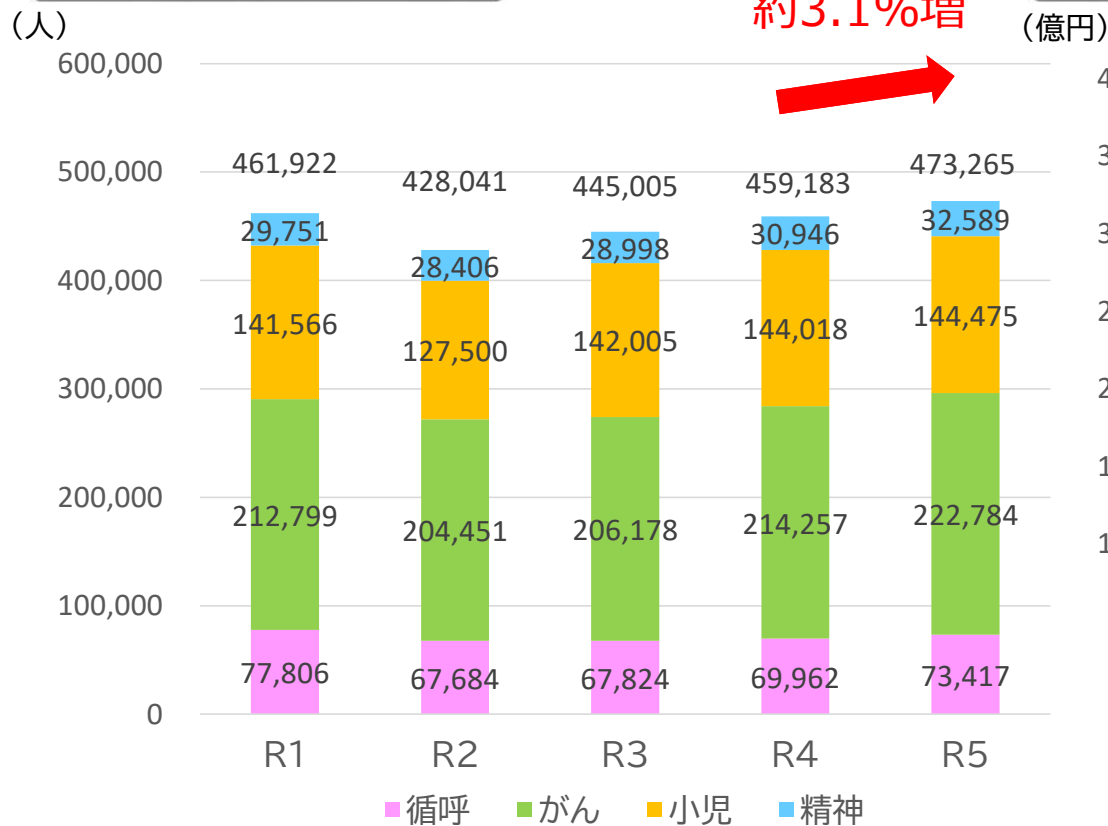
入院収益の推移



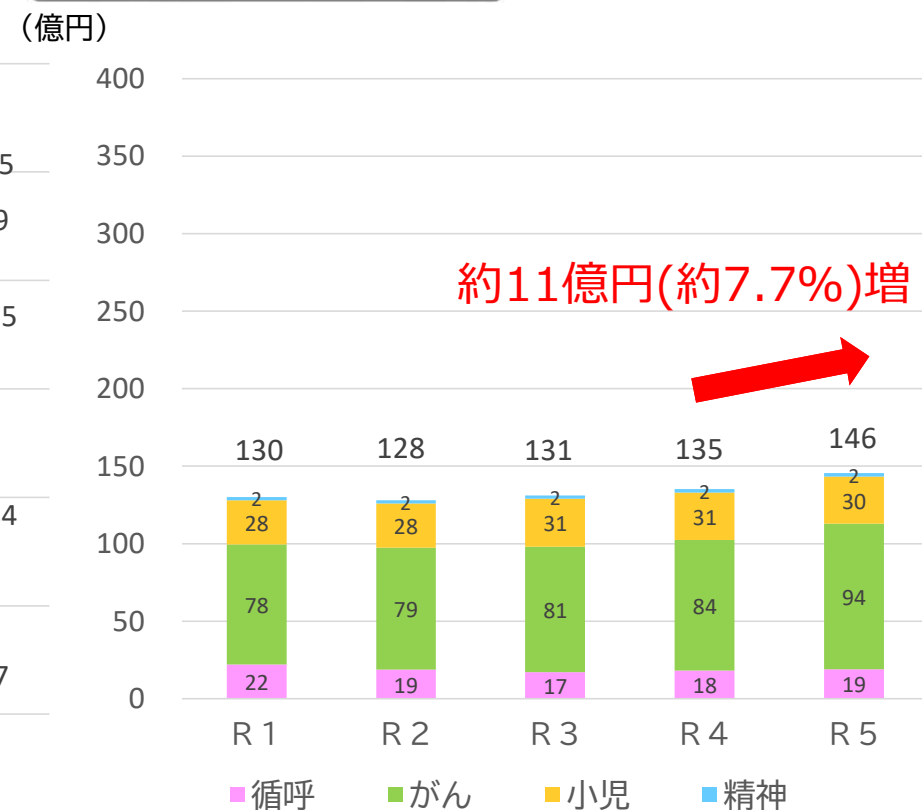
令和5年度の事業実績 | 外来

- 外来患者数は、令和4年度比約3.1%増、外来収益は約11億円(約7.7%)増と回復傾向を維持。
- 令和元年度比では、外来患者数は約2.5%増、外来収益は約11.9%増と、共に上回っている。

外来患者数の推移



外来収益の推移

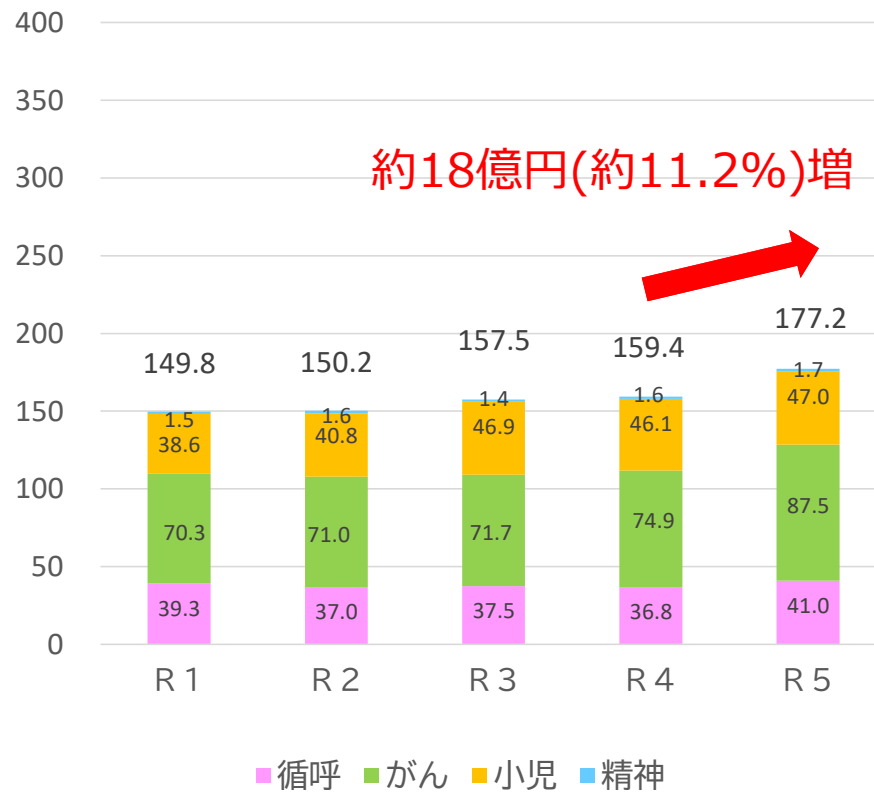


令和5年度の事業実績 | 費用

- 材料費は、令和4年度比で約18億円（約11.2%）増と大きく増加している。
（医業収益に対する材料費の割合も令和4年度対比で約1.4%増である。）
- 給与費は、令和4年度比で約11億円（約4.0%）増である。

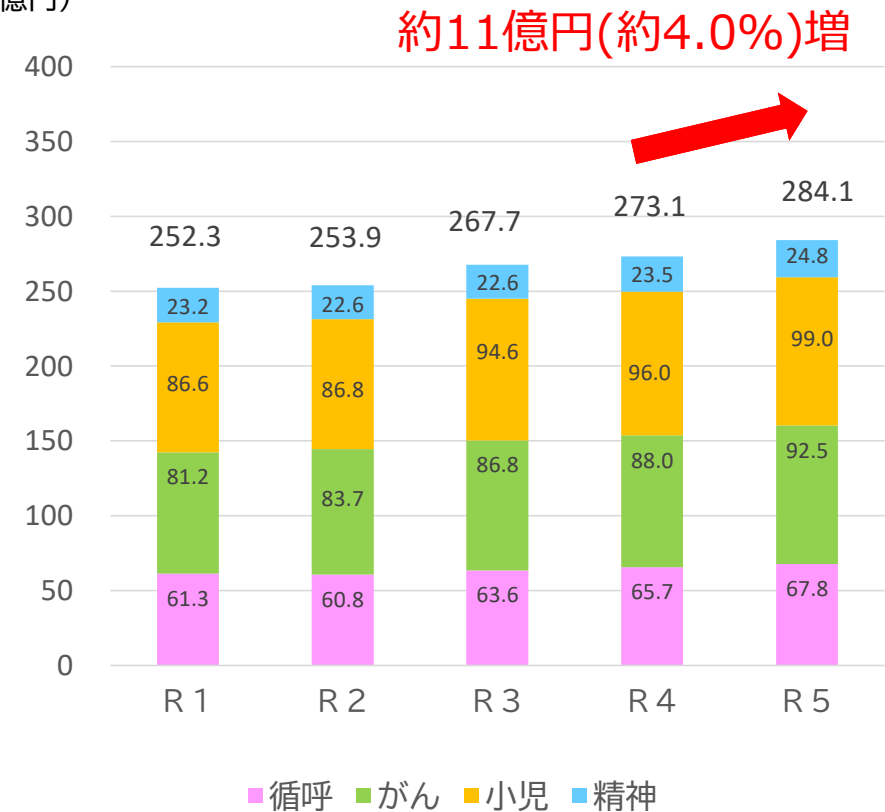
材料費の推移

(億円)



給与費の推移

(億円)



令和5年度の事業実績 | 決算

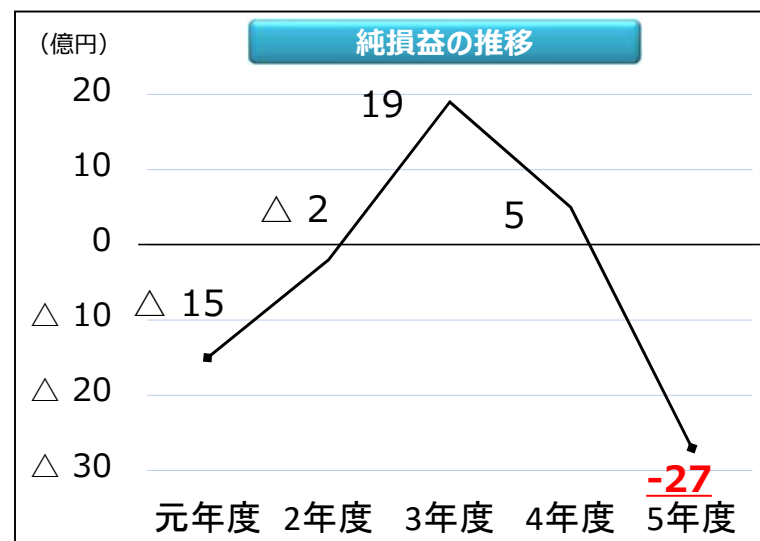
決算の状況

- 収益的収入 635億7,900万円（前年度比 4億5,700万円減）
- 収益的支出 662億4,400万円（前年度比26億5,800万円増）
- 当期純損益 △26億6,500万円（前年度比31億1,500万円減）

決算のポイント

- ✓ 医業収益は年度計画からは減額となるものの、過去最高の472億円（前年度比31億円増）
- ✓ 医業費用は給与改定や材料費高騰の影響で617億円（前年度比25億円増）
- ✓ 純損益は△26億6,500万円となった

- 医業収益 472億円（前年度比31億円増）
 - うち入院収益 314億円（前年度比22億円増）
 - うち外来収益 146億円（前年度比11億円増）
- 医業費用 617億円（前年度比25億円増）
 - うち給与費 284億円（前年度比11億円増）
 - うち光熱水費等 13億円（前年度比 4億円減）
 - うち材料費 177億円（前年度比18億円増）
- 運営費負担金収益 147億円（前年度比 2億円減）
- 補助金収益 7億円（前年度比35億円減）



「令和6年度上半期の病院運営状況」

○ 入院

区 分		R6年度9月末 時点累計 (A)	R5年度9月末 時点累計 (B)	R5年度比 A-B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A-C	
全体	延 患 者 数 (人)	180,683	183,128	△2,445	△1.3%	192,640	△11,957	△6.2%
	新規患者数 (人)	12,473	12,361	112	0.9%	12,684	△211	△1.7%
	病床利用率 (%)	73.4	74.4	△ 1.0	△1.3%	78.3	△ 4.9	△6.3%
循・呼	延 患 者 数 (人)	37,563	38,907	△1,344	△3.5%	46,877	△9,314	△19.9%
	新規患者数 (人)	3,016	3,006	10	0.3%	3,210	△194	△6.0%
	病床利用率 (%)	59.8	62.0	△ 2.2	△3.5%	74.7	△ 14.9	△19.9%
がん	延 患 者 数 (人)	66,209	65,424	785	1.2%	71,110	△4,901	△6.9%
	新規患者数 (人)	4,935	5,007	△72	△1.4%	5,249	△314	△6.0%
	病床利用率 (%)	71.9	71.1	0.8	1.1%	77.3	△ 5.4	△7.0%
小児	延 患 者 数 (人)	49,369	51,092	△1,723	△3.4%	46,734	2,635	5.6%
	新規患者数 (人)	4,179	4,035	144	3.6%	3,911	268	6.9%
	病床利用率 (%)	85.4	88.4	△ 3.0	△3.4%	80.8	4.6	5.7%
精神	延 患 者 数 (人)	27,542	27,705	△163	△0.6%	27,919	△377	△1.4%
	新規患者数 (人)	343	313	30	9.6%	314	29	9.2%
	病床利用率 (%)	82.2	82.7	△ 0.5	△0.6%	83.4	△ 1.2	△1.4%

○ 外来

区 分		R6年度9月末 時点累計 (A)	R5年度9月末 時点累計 (B)	R5年度比 A-B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A-C	
全体	延 患 者 数 (人)	235,620	236,220	△600	△0.3%	231,060	4,560	2.0%
	新規患者数 (人)	14,450	14,554	△104	△0.7%	14,072	378	2.7%
	1日患者数 (人日)	1,900.2	1,905.0	△ 4.8	△0.3%	1,878.5	21.7	1.2%
循・呼	延 患 者 数 (人)	37,517	36,295	1,222	3.4%	38,613	△1,096	△2.8%
	新規患者数 (人)	2,315	2,250	65	2.9%	2,671	△356	△13.3%
	1日患者数 (人日)	302.6	292.7	9.9	3.4%	313.9	△ 11.3	△3.6%
がん	延 患 者 数 (人)	109,002	110,601	△1,599	△1.4%	106,655	2,347	2.2%
	新規患者数 (人)	4,131	4,151	△20	△0.5%	4,304	△173	△4.0%
	1日患者数 (人日)	879.0	891.9	△ 12.9	△1.4%	860.1	18.9	2.2%
小児	延 患 者 数 (人)	72,789	73,073	△284	△0.4%	70,966	1,823	2.6%
	新規患者数 (人)	7,364	7,481	△117	△1.6%	6,647	717	10.8%
	1日患者数 (人日)	577.7	579.9	△ 2.2	△0.4%	577.0	0.7	0.1%
精神	延 患 者 数 (人)	16,312	16,251	61	0.4%	14,826	1,486	10.0%
	新規患者数 (人)	640	672	△32	△4.8%	450	190	42.2%
	1日患者数 (人日)	131.5	131.1	0.4	0.3%	120.5	11.0	9.1%

○ 救急患者数・手術件数

区 分		R6年度9月末 時点累計 (A)	R5年度9月末 時点累計 (B)	R5年度比 A-B		R1年度9月末 時点累計 (C)	R1年度比 A-C	
全体	救急患者数 (人)	4,839	5,176	△337	△6.5%	5,202	△363	△7.0%
	手 術 件 数 (件)	4,685	4,537	148	3.3%	4,353	332	7.6%
循・呼	救急患者数 (人)	1,936	1,987	△51	△2.6%	2,227	△291	△13.1%
	手 術 件 数 (件)	814	798	16	2.0%	676	138	20.4%
がん	救急患者数 (人)	247	258	△11	△4.3%	222	25	11.3%
	手 術 件 数 (件)	1,810	1,779	31	1.7%	1,896	△ 86	△4.5%
小児	救急患者数 (人)	2,522	2,803	△281	△10.0%	2,573	△51	△2.0%
	手 術 件 数 (件)	2,053	1,957	96	4.9%	1,774	279	15.7%
精神	救急患者数 (人)	134	128	6	4.7%	180	△46	△25.6%
	手 術 件 数 (件)	8	3	5	166.7%	7	1	14.3%

令和6年度における 機構全体及び各病院の取組



令和6年度の機構全体の取組

資料
2-1



患者に寄り添った医療の提供

- ☑ 地域医療機関との前方・後方連携強化
- ☑ 看護部を中心とした効率的なベッドコントロール
- ☑ 初診から入院までの待ち日数の改善

前方後方連携



地域医療機関への訪問や、地域医療機関を対象とした講演会を開催

病床の効率的な運用



経営改善に向けた取組

- ☑ SPDによる診療材料の物流効率化
- ☑ 診療材料のNHA共同購入品目への切り替え
- ☑ 専門家による診療報酬研修やレセプト診断

Supply Processing and Distribution



物品調達から物流管理まで専門業者が一元管理。購入費や在庫を削減

日本ホスピタルアライアンス



加盟病院の共同購入によるスケールメリットを活かしたコスト削減



医療人材確保・人材育成

- ☑ 職員の病院間派遣による相互支援
- ☑ 患者のニーズに対応した人材の確保
- ☑ 病院間における戦略的人事異動の実施

職員の病院間派遣



病院毎に異なる繁忙期に看護師派遣を

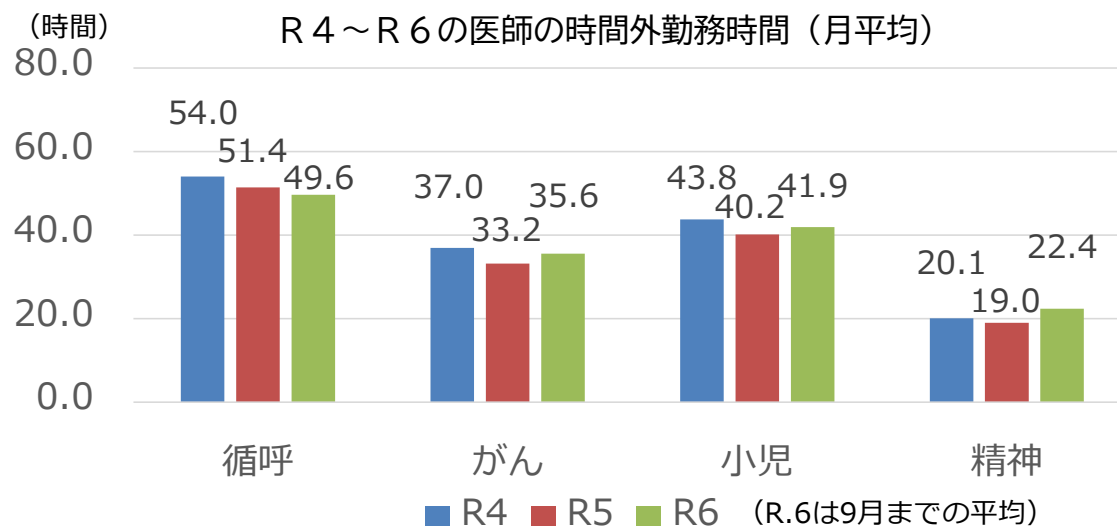
職員の充実



放射線治療や検査件数の増加に対応すべく医療人材を確保

働き方改革への対応

医師の時間外の推移



- 令和5年度から働き方改革への対応を開始
- 医師事務作業補助者による診療記録の代行入力や、看護師による医師の事前指示に基づく薬剤投与・採血などのタスクシフトを推進することで、医師の労働時間短縮を図っている。

職員の時間外削減の取組

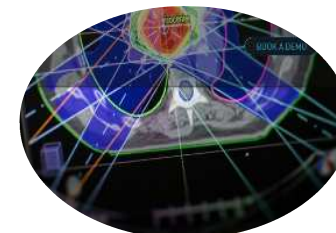
○音声認識技術を活用した入力支援システムの導入

音声により看護記録を記載可能なシステムを導入することで、看護師の手書メモ・転記時間等の作業時間削減を図ると共に、正確で質の高い看護記録を作成



○A I を搭載した治療計画装置の導入

A I を活用して放射線治療計画作成を半自動化、短時間化できる治療計画装置を導入することで、職員の負担を減らしつつ、より多くの患者に高度専門医療を提供



その他 (TOPICS)

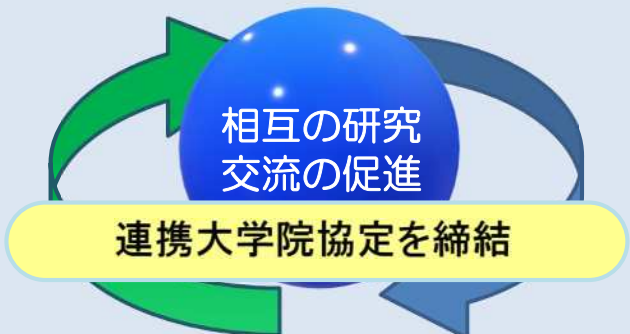
群馬大学大学院との連携



国立大学法人 群馬大学
大学院医学系研究科
Graduate School of Medicine



地方独立行政法人
埼玉県立病院機構



相互の研究
交流の促進

連携大学院協定を締結

○令和6年8月9日に群馬大学大学院医学系研究科と埼玉県立病院機構との間で連携大学院協定を締結

【目的】

- 〈診療〉豊富な臨床症例に基づいた研究マインドを有した医療人を養成
- 〈教育〉新たな人材交流と学びなおしの場の提供
- 〈研究〉研究の多様化によるアクティビティの向上、新たな知見の創出

【主な連携内容】

- ・群馬大学大学院医学系研究科に連携講座を設置
- ・病院機構の研究者が群馬大学大学院授業及び研究指導等を実施
- ・病院機構が群馬大学大学院の学生を受入れ

全国地方独立行政法人病院協議会総会の開催

令和6年11月7日(木)～8日(金)に、ロイヤルパインズホテル浦和にて、第12回全国地方独立行政法人病院協議会総会を開催

43 会員法人 142 名
5 関係団体 10 名
計 152 名が参加



◆総会

◆特別講演

講演①「2040年を見据えた医療提供体制構築に向けた課題

：公立公的病院への期待」【演者】厚生労働省 医務技監 迫井 正深

講演②「超少子高齢社会における公立・公的病院の役割

：地域との関わりを中心に」【演者】公益社団法人 日本医師会 会長 松本 吉郎

◆アンケート調査結果報告「決算状況調査等」

◆地域医療の現状と課題セッション

基調講演①「「医師の働き方改革」を考える」

基調講演②「地方自治体病院における医療DXの取り組みと効果」

基調講演③「地方における医師確保の取組について」

◆話題提供セッション

発表①「自治体病院の運営と経営：地方独立行政法人になってできたこと」

発表②「地域医療の再生：連携推進法人のその後の発展」

発表③「超少子高齢社会における小児医療の課題とこれからの対応」

令和5年度運営協議会における主な質疑、御意見

資料
2-4

(委員、役職名は令和5年度時点)

- 渡辺委員：高度専門政策医療の提供について、採算性と公的な役割とのバランスをどう考えているか
- 小林委員：若い医師の確保の状況について、機構全体で充足しているか。また、病院別ではどうか
- 大島委員：独法化し、4つの病院が1つの組織となったメリット及びデメリットは
- 金井会長：コメディカルの方々の人材確保について、どのような対策をしているか
- 柿澤副会長：県立病院間で異動等があると聞いているが、スタッフの異動はどのように行われているか
- 桑原委員：舌がんの患者は開業医では対応が難しいこともあるため、今後は歯科も連携をし、情報共有していきたい
- 神永委員：小児医療センターのボランティアスタッフ等、患児や家族をサポートするような体制は今後どのように考えているか
 - ：循環器病対策上の連携、支援としての繋がりについて、他病院との連携については今後どのように進めていくつもりか
 - ：精神センターにの電子カルテ導入について、個人情報の取り扱い、漏洩についてはどのように対策しているか
- 藤田委員：4病院において、医師の働き方改革による影響は。独自の取組をされているのか
- 亀井委員：国はがんとの共生として社会連携等に力を入れているが、検討状況や今後導入されていくか
 - ：県の拠点病院としてがん医療を引っ張っていく立場と思うが、地域医療連携病院との連携はどのような状況か
- 秋岡委員：小児センターから循・呼センターに当直派遣を出しているとのことだが、小児科医の働き方改革とのバランスは
 - ：循・呼センターでのCCUの当直に、小児センターからの当直派遣医師がどういう役割を果たしているのか
 - ：治療が済んだ患児を地域医療機関に逆紹介する際、地域連携を図る上で、慢性期の患者を地域と役割分担していくような取組や仕組みがあるか
- 松尾委員：精神医療センターにおいて、外来の数がすごく増えているが、初診の患者を増やすために工夫されたことは
 - ：YouTubeチャンネルについて、どのような目的で作成しているのか。また、再生回数はどの程度か
 - ：小児センターでの広報について、情報発信する管理体制、チェック機能はどうなっているか
 - ：電子カルテについて、4病院間での電子カルテの相互参照はできるか

重点的な取組

病院の抱える課題

- 近年、開胸手術が困難な高齢の患者が増えている。
- 従来の手術より体への負担が少なく、比較的早期に退院できる低侵襲治療を希望する患者が増えている。
- 従来の放射線治療は正常な部分への照射影響を考慮し、長期間毎日通院して少しずつ行う必要があり、患者の負担が大きかった。

R 6 年度の取組

- カテーテル治療、胸腔鏡下手術等、患者の病態に応じた負担の少ない治療法の提供
- TAVI、マイトラクリップの実施
- 最新のリニアック装置を活用した高精度な放射線治療を実施し、治療効果を高めるとともに副作用を軽減、治療期間も短縮

【年度計画における低侵襲治療に係る目標と実績】

項 目	R6年度目標	R6年度実績 (4～8月)	R5年度実績 (4～8月)
肺がん、気胸などに対する単孔式またはそれに準じた胸腔鏡手術 (件)	1 6	1 2	4
SHD (構造的心疾患) に対するカテーテル治療件数 (件)	1 3 5	8 8	8 7
ハイブリット手術室を用いた脳神経外科カテーテル治療件数 (件)	4 5	1 9	2 5

循環器・呼吸器病センター

リハビリ訓練室移転による患者サービスの向上

資料
2-6

その他 (TOPICS)

1 移転工事の概要

(1) 趣旨

- ・ 患者数増加に対応できるようにするため、広いスペースを確保する。
- ・ 患者にとって良好な環境を整え、質の高いリハビリテーションを提供する。

(2) 運用開始

令和5年9月16日

(3) 効果

- ① 訓練スペースの拡大
- ② 充実した訓練設備
- ③ プライバシーへの配慮



患者サービスの向上

【リハビリ対象患者数】(人)

令和元年度
1,669



令和5年度	令和6年度 (4~8月)
2,536	1,053



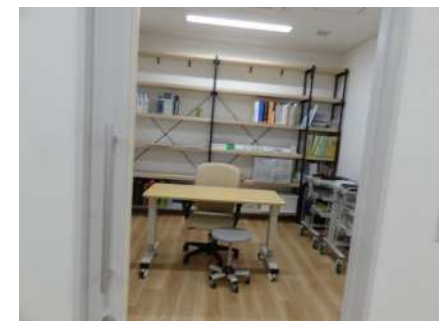
余裕ある訓練スペース: 室内の歩行訓練も広いスペースで快適に実施できるようになった。



屋外歩行路: 屋外での歩行訓練が可能に。屋外に出ることで気分転換にもなると好評。



筋トレマシン・エルゴメーターなどを増設。心電図モニター監視下で安全な負荷量を確認しながらのリハビリを提供。



訓練用個室: プライバシーを確保しながら、言語訓練・知能検査等が行えるようになった。

2 今後の対応

段階的なスタッフ増員を行ないながら、収益増を図る。

重点的な取組

病院の抱える課題

- **「がんゲノム医療拠点病院」として良質ながんゲノム医療を地域医療として実践する**
 - ・ がんゲノム医療⇒がんの遺伝子変異、融合遺伝子などのゲノム情報に基づくがん診療
 - ・ がん遺伝子パネル検査の可能性⇒標準治療がないか終了する患者の約10～20%に新たな
 - ↳ 国の指定する施設でのみ実施可能に効果の期待できる薬剤・治療法を提案できる
- 当院は、全国で32施設ある「がんゲノム医療拠点病院」（拠点病院）の一つで、直近の更新時（令和5年3月）には指定施設の中での実績（検討症例数）が低いことが課題

R6年度の取組

- **対外的取組：がん遺伝子パネル検査の普及・啓蒙活動**
 - ・ がんゲノム医療が実施できていない施設も多いため、がんセンターとの連携強化、がんゲノム診療体制構築のサポート、啓蒙活動を実施（新規連携施設1増、検討施設3）
⇒ 患者紹介数の増加につなげる（今後も病院訪問、講演会などを通して地域の病院間連携を深める活動を継続）
- **内部的取組：がん遺伝子パネル検査の効率化と実績の蓄積**
 - ・ エキスパートパネル（※）の課題に対するアンケート調査
⇒ 課題の洗い出し（臨床医の負担や開始時間が遅い等）による改善策の立案と実践
 - ・ エキスパートパネル業務の効率化
⇒ がん遺伝子パネル検査依頼に対する臨床医のハードルを下げ、患者数の増加を図る。
⇒ 検査を担う医師・看護師・検査技師等の負担軽減を目指し、検査実績の増加を図る。

（※）多職種の専門家が検査結果に関して医学的解釈および治療薬等に関する報告内容を検討する会議。がんゲノム遺伝子パネル検査では必須。

その他 (TOPICS)

がんについての正しい知識の普及と理解促進のため、吉本興業はんにゃ・川島さんをお呼びし、埼玉県×伊奈町 がん市民公開講座を開催

■ 概要

日時： 2024年6月14日（金曜日） 13:30～15:00

主催： 埼玉県立がんセンター、厚生労働科学研究費補助金
がん対策推進総合研究事業研究班

協賛： 埼玉県立病院機構、後援： 埼玉県、伊奈町

講師： 影山幸雄（埼玉県立がんセンター 病院長）
吉田玲子（埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科 副部長）
吉本興業 はんにゃ・川島章良

外部講師（がんの専門家
＋著名人）による学校の
がん教育は埼玉県初

■ 参加者数 全体:523名 現地:138名 WEB:385名

■ 目的 ・患者・市民に対してのがんについての正しい
知識の普及と理解の促進
・小学生、中学生へのがん教育の機会の提供

■ 講演内容

専門家講師：日本のがん医療の現状、がんの疫学、
がんになる要因(環境、遺伝)と予防対策

外部講師：若くして罹患したがんの闘病経験

■ 実施後アンケート結果： がん予防の関心が高まったか？➡そう思う97.3%
今回の講座はあなたや家族に役立つ内容だったか？➡そう思う96.3%



重点的な取組

病院の抱える課題

- 急速に進む少子化の中で、県内の小児医療環境は今後も集約化等の変化が予測される。
- 県内の小児医療機関との連携を強化して、高度専門医療を継続し三次医療機関としての機能を維持することが必要。
- 当センターでの診療が必要な新規患者の円滑な受入れのため、地域医療機関からの紹介受入れ強化とともに、地域で対応可能な患者の逆紹介を促進する必要がある。

R 6 年度の取組

- 医療連携機関登録制度による病診連携・病病連携の促進 (R6.10.11現在84機関)
- 紹介元医療機関や地区医師会への訪問、講演会、診療連携カンファレンスの開催による前方連携の推進
- 「地域連携懇談会」を開催し、地域医療機関との“顔の見える”関係づくりを推進
- 看護師の特定行為研修機関*としての研修実施による、チーム医療の推進と地域医療機関等への技術的支援 (*R6.9.5に厚労省指定)
- 新興感染症対策のため、11A病棟の感染対応陰圧室7室増設改修等の機能強化
- YouTube、SNSを活用し、疾患・診断・治療に関する情報発信

〔R6.10.25現在〕

・YouTube 2,590人、44本
・Instagram 2,110人、197本
・Facebook 103人 ・X 1,218人



* YouTube R6.8.23投稿 4,913回視聴

その他 (TOPICS)

1 手術室等への入室時支援

(1) 背景・目的

患児が手術室や治療室に向かう際に強い不安を感じる

= 自ら納得して病気と治療に立ち向かうことが困難に

➡ 患児と家族の不安や心理的ストレスを軽減し、安心して治療を受けられるよう支援

(2) 取組

・ R5.4月～ おもちゃの自動車3台を手術室前に配備

・ R6.10月～ 電動モビリティ “Honda Shogo” の導入

ホンダ米国法人の取組を偶然見つけた医師の働き掛けにより、本田技研工業（株）とホンダモビリティ南関東（株）から無償貸与を受けて1年間のトライアル導入（国内初）



電動モビリティ
“Honda Shogo”

2 患者用Wi-Fiの整備 (R5.2月～)

タブレット端末での学習、スマホでのご家族とのコミュニケーションを支援

3 ホスピタル・クラウンの病棟訪問 (毎月2回)

4 セラピードッグの病棟訪問 (コロナ禍で中断、R5.5月再開：隔月)

・ 日本動物病院協会と七里動物病院によるボランティア活動

5 ハートフル・カート (R5.9月～：毎月2回)

・ 子供たちへのギフト（無償配布）を載せたカートが病棟内を巡回

・ ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたまの提供

6 プロサッカー選手の病院訪問 (不定期、年2～3回程度)



重点的な取組

病院の抱える課題

- 新規入院患者数の増加を図りつつ、令和6年度診療報酬改定に対応することを通じて、政策医療と経営改善の両立に取り組む必要がある。

R5アンケートの結果

医療連携室について、病院の約3割、クリニックの約4割に知られていない

R6年度の取組

- 新規入院患者数の増加を図るために
 - 1 医療連携室の機能強化
 - (1) ニュースレターの発行回数の増加
 - (2) 地域医療機関への訪問回数の増加 など

- 令和6年度診療報酬改定への対応

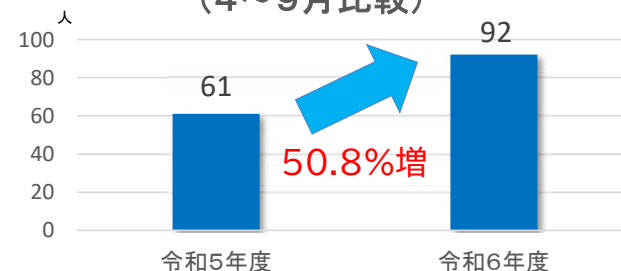
- 1 精神科入退院支援加算

【目的】 入院早期からの包括的支援マネジメントにより、退院後の生活を見据えた患者支援を促進し、在院日数の短縮を図る

- 2 児童思春期支援指導加算

【目的】 多職種が連携し主に高校生の思春期外来診療の充実を図る

医療連携室を経由した入院患者数
(4～9月比較)



➤【手法】 入退院支援室の新設(10/1付け)
▶医師、看護師、PSW各1名を兼務配置

➤【手法】 日本児童青年精神医学会が実施する「児童思春期精神医療研修」の受講(R6.12予定)

その他 (TOPICS)

■ 実施の目的

児童・思春期病棟の入院患者に対する教育・療養環境の整備

■ 整備の内容

【第1目標 (400万円)】

PCやタブレットの購入、Wi-Fi環境の構築、農園の造成、農機具の購入

【第2目標 (600万円)】

農園に東屋を設置

■ 募集期間

7月17日 (水) ~ 9月14日 (土)

■ 寄附金総額

8,815,000円 (寄附件数223口、支援者数213人)

■ 今後のスケジュール

1 整備事業の実施

ICT環境及び農園の整備

2 支援者への対応

お礼状及び領収書を送付

整備事業の進捗状況を報告 (ホームページ)

支援者ご芳名 (希望者のみ) の掲載・公表 (ホームページ、外来ロビー)



現在の農園



整備後の農園 (イメージ)



※画像はイメージです